

2 国際経済会議準備委員会(第一次)*

390 昭和7年5月11日 在英国松平大使より
芳沢外務大臣宛(電報)

英米主導による国際経済会議開催を主張する
チャーチルの議会演説について

ロンドン 5月11日後発
本省 5月12日前着

第二一〇號

十日夜下院ニ於テ財政法案討議ノ際「チャーチル」ハ『目下世界ノ經濟、財政上ノ現情ニ顧ミ金貨ノ價值ヲ維持シ通貨ノ安定ヲ計ル事最モ重要事ニシテ本問題解決ノ爲英、米兩國カ「イニシアチブ」ヲ採リ此ノ際速ニ國際會議ヲ開催セシム事ヲ提唱ス通貨問題ノ解決無クシテ歐洲各國間ニ「ローザンヌ」賠償會議ヲ開催スルモ其成果ヲ舉グル事困難ナル可ク軍縮會議乃至「オッタワ」會議ノ如キモ現在ノ如ク世界經濟戰ノ繼續スル限り其成功覺束ナシ要スルニ刻下ノ急務ハ英、米兩國ノ先導ニ依リ通貨問題ノ解決ヲ計ルニアル』旨ノ演説ヲ爲シ財界其他各方面ノ注意ヲ惹キ居レリ

米ニ轉電セリ

391 昭和7年6月1日 在米出淵大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

国際経済会議開催に賛成との米国國務長官の
声明について

ワシントン 6月1日後発
本省 6月2日前着

第三四〇號

物價安定ニ關スル國際會議ヲ倫敦ニ開催方ニ關シ國務長官ハ三十一日左ノ主旨ノ聲明ヲ爲シタリ
世界的物價安定ニ關スル國際會議開催方ニ付テ英國大使ヨリ米國政府ノ意嚮ヲ問合セ越セルカ米國政府ハ審議ノ結果「メロン」大使ヲ通シ早速此種會議ヲ開催スルコトハ現在ノ不況對策トシテ大ナル價值アルヘキ旨ヲ回答セリ尤モ本會議ハ戰債賠償軍縮等ノ純經濟問題以外ノ事項ニ關係ナキモノナリ尙英國政府ハ本件ニ關シ佛伊及其他ノ諸國ノ意嚮ヲモ問合セ中ナリト了解ス

尙新聞報道ニ依レハ華府官邊ニ於テハ本會議ニ於テハ通貨

爲替金本位銀問題等結局一般的經濟會議タルニ至ルヘク會議ノ時期ハ「ローザンヌ」「オッタワ」兩會議以後十一月頃ナルヘシト豫想シ居ル趣ナリ
英ニ轉電シ在歐各大使ヘ郵送セシム

392 昭和7年6月2日 在米出淵大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

国際経済会議と戦債・賠償問題の關係に關する
米国新聞の報道振りについて

ワシントン 6月2日後発
本省 6月3日前着

第三四三號

往電第三四〇號ニ關シ

件 二日華府通信ノ傳フル處ニ依レハ曩ニ英國政府ヨリ一般經濟問題ヲ審議スル「ローザンヌ」會議第二部會ニ米國側參加ノ意嚮アリヤ否ヤヲ探リ來リタルカ米國トシテハ若シ之ニ參加セハ戰債ト賠償トハ關係ナシトスル米國從來ノ主張ヲ弱ムルヤノ誤解ヲ招ク虞アルニ依リ之ニ參加セサルモ右ト關係無キ經濟會議ニハ參加スルモ可ナリトノ意嚮ヲ洩ラ

393 昭和7年6月3日 在英国齋藤臨時代理大使より
齋藤外務大臣宛(電報)

国際経済会議開催問題の实情につき英国外務
次官の内話について

ロンドン 6月3日後発
本省 6月4日前着

第二四一號

三日外務次官ノ求ニ應シ往訪シタル處次官ハ國際經濟會議
開催問題ニ付新聞ニ區々ノ說傳ハリ居ルヲ以テ實情ヲ御話
シ置キ度シト冒頭シ往電第二一〇號「チャーチル」ノ所言
ニ刺戟セラレ英、米間交渉ノ機運動キタル際偶々華府ニ於
テ「キヤツスル」次官ノ聲明發表セラレタルカスル聲明ハ
英國側ニ於テ全ク豫期セサリシモノナリシヲ以テ在米大使
ヲ通シ米國ノ眞意ヲ尋ネシメタル處英國側力常ニ米國ノ參
加如何ヲ確メントシ居タル「ローザンヌ」會議第二部ニ對
シテハ米國ニテハ種々ノ關係上之ヲ欲セス國際經濟問題ニ
付テハ別個ノ會議ヲ開カンコトヲ希望シ居ルコト明カトナ
レリ英、米間ノ交渉ハ右事情ニテ全ク不用意ノ間ニ豫備的
且非公式ニ行ハレタルニ過キスシテ開催ノ時期、場所、様
式等ニ付何等成案ヲ得タルモノニ非ス其ノ時期ニ付テハ
「オタワ」會議、聯盟總會、米國選舉等ノ關係ヨリ到底早
急ニ之ヲ開催スルコト能ハサル可ク場所ニ付テモ倫敦說ア
ルモ實ハ全ク未定ナリ今後交渉進捗スルニ於テハ關係諸國
ニ通報ヲ怠ラサルヘシ右事態貴國政府ニ於テ御諒得アラン
コトヲ希望スト述ヘタリ

第五四三號

(1) 一、七月十五日臨時理事會開催（長岡理事代理トシテ本官
出席ス）勞山發閣下宛電報第七一號(5)經濟財政會議ニ關
スル決議ニ關シ聯盟カ同會議招請ヲ引受クル事ヲ決シタ
ル上「サイモン」ノ提案ニ基キ不取敢左ノ趣旨ヲ決議セ
リ

(一) 本件會議召集準備ノ爲理事會委員會（勞山會議招請國
タル理事會代表者及理事會ニ於ケル經濟財政問題報告者
即チ日、英、佛、伊、獨、諾威六國代表者ヲ以テ組織
ス）ヲ任命シ勞山決議ノ豫見スル專門家委員會ノ任務ヲ
冒ササル範圍内ニ於テ會議招請ニ關シ必要ナル實際的問
題（會議ノ場所、期日及其構成ニ關スル事項等）ヲ決定
セシム本委員會ハ必要ト思料スル場合他ノ國ニ代表者任
命方ヲ招請スルコトヲ得（尙理事會ハ英國代表者ヲ理事
會委員會ノ議長ニ指命セリ）

(二) 勞山決議ニ豫見スル專門家委員會ニ對シテハ會議ノ用
ニ供スル爲註釋附議題案ノ作成方ヲ委嘱ス
(三)⁽²⁾、理事會委員會議長ハ他ノ委員ト協議ノ上勞山決議ニ
依リ理事會ノ任命スヘキ財政經濟專門家六名（勞山發

尙本官カ新聞紙等ニハ獨、佛最近ノ政情關係等ヨリ自然
「ローザンヌ」會議延期トナルコトアル可キヤノ風說ヲ傳
フルモ斯ル事態ヲ生スルコトアル可キヤト質問シタルニ對
シ次官ハ獨逸新政府ニ於テ「ローザンヌ」會議ヲ熱望シ居
リ今同當國駐劄大使ヨリ外務大臣ニ榮轉セル「ノイラー
ト」モ就任早々「ローザンヌ」ニ出張スルコトニ確定シ居
リ旁延期ヲ必要トスル如キ事情ニ立至ラサル可シト答ヘ更
ニ本官ヨリ米國ニ對シテ其ノ後交渉ヲ繼續シ居ラルルヤト
尋ネタルニ次官ハ目下ノ處別段新ラシキ「ステツプ」ヲ執
リ居ラス「ローザンヌ」會議ノ結果ヲ待チテ更ニ交渉ヲ進
ムルコトトナル可キカト思考スト述ヘタリ
米、佛、獨、伊、聯盟ニ轉電セリ

394 昭和7年7月16日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛（電報）

國際經濟會議を連盟主催で行うとの連盟臨時
理事会決議について

ジュネーヴ 発
本 省 7月16日後着

^(下次キ)
閣宛電報第四〇號(7) ヲ任命スヘシ尙必要ト認ムル場合
ニハ他ノ委員ヲ任命スルコトヲ得

二、理事會閉會後「ドラモンド」ノ事務室ニ理事會委員會
ヲ構成スヘキ各理事參集「サイモン」ヨリ米國ヲ理事會
委員會ニ招請シタキ處差支ナキヤト相談シタル處理事中
一應政府ノ訓令ヲ得タキ旨希望スル者アリ又諾威理事ハ
勞山會議招請國タル白耳義ヲモ招請センコトヲ提議シ結
局十九日迄ニ右二國ノ招請方ニ關スル各國政府ノ意向ヲ
確メタルノ上更ニ參集スルコトトナレリ就テハ十八日迄
ニ反對ノ訓令ニ接セサル限り右二國招請方ニ同意スヘキ
ニ付右御了承ヲ請フ

三、尙「サイモン」ハ會議後當方ノ質問ニ對シ會議地ハ倫
敦トシ期日ハ大体米國大統領選舉後トシ度旨内話セリ
在歐各大使及米ニ轉電セリ

編 注 「命」の個所に「名」と書込みあり。

395 昭和7年7月19日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より
内田外務大臣宛（電報）

國際經濟會議準備委員會に關する連盟理事會
委員會の決定事項について

ジュネーヴ 7月19日後
本 省 7月20日前着

第五四六號

往電第五四三號ニ關シ

十九日理事會委員會開催主ナル決定事項左ノ通り

- 一、米國及白國ヲ本委員會ニ招請スル事ニ付各國共異議無ク右招請狀發送ノ時期方法等ハ「サイモン」議長ニ一任ス
- 二、本委員會次回會合ハ大體九月總會中ニ開催シ準備事務ヲ開始ス尤モ議長ニ於テ必要ト認メタル時ハ其ノ以前ニモ之ヲ招集スル事アルヘク殊ニ本會議ノ時期及場所ニ付テハ取急キ決定ノ必要生スルヤモ知レサルニ付其ノ場合ニハ本委員會ヲ倫敦ニ招集スル事トシ度ク各國ハ便宜在倫敦代表者ヲ出席セシメラレ度キ旨提議シ其ノ通り決定ス
- 三、本委員會議長ノ任命スヘキ専門家六名ニ付テハ各國ニ於テ其ノ候補者ヲ考慮シ置ク事トス

英、米、佛へ轉電シ、獨、伊、白、土、露へ暗送セリ

396 昭和7年7月21日 在ニュー・ヨーク堀内総領事より
内田外務大臣宛

國際經濟會議において戦債・賠償・関税問題を討議せざるは無意味との米國財界・実業界要人の意見について

普通第二五〇號 (8月15日接受)

昭和七年七月二十一日

在紐育

總領事 堀内 謙介〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

本秋倫敦ニ開カルヘキ國際經濟會議ニ於ケル議題ニ關スル當地有力者ノ意見報告ノ件

本年五月三十一日國務長官「スティムソン」ハ本秋倫敦ニ開カルヘキ經濟會議ニ對スル米國參加條件トシテ同會議ニ於テハ戦債賠償及軍縮問題並ニ國內問題タル関税問題ノ討議ヲ除外スヘキコトヲ聲明シタル處六月十九日當國國際聯盟協會長「ジョージ・ウキカシヤム」ハ今般同協會カ「コロンビヤ」大學總長「ニコラス・エム・バトラ」ニ委嘱シ「ペンシルヴァニア」鉄道會社々長 General W.W.

397 昭和7年8月19日 内田外務大臣より
在本邦リンドレー英國大使宛

國際經濟會議準備委員會の招請を連盟に要請することに異存なしとの回答について

通一普通第一一二號

世界經濟財政會議ニ關スル件

以書翰啓上致候陳者世界經濟財政會議ニ關シ八月十七日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣敬承致候帝國政府ハ「ローザンヌ」會議議長「ラムジ、マクドナルド」氏御提議ノ通國際聯盟理事會ニ對シ

(一)「ジュネーヴ」ニ準備專門家委員會ヲ開催スルコト

(二)國際聯盟事務局ニ於テ準備專門家委員會事務局ノ任ニ當ルコト

(三)國際聯盟及關係各國ニ取り都合ヨキ標準準備專門家委員會會合ノ日ヲ決定スルコト

ヲ要請スルコトニ付何等異議無之候条右様御承知相成度此段回答申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

右ハ前頭「スティムソン」國務長官聲明ニ對スル直接ノ反對意見表示ニハ非ルモ本問題ニ關スル當地方有力者ノ意見ヲ代表シ居ルモノナルニ付何等御参考込此段報告申進ス
本信寫送付先 在米大使

國際經濟會議準備委員會に關するリース・ロスの内話について

ロンドン 發

大藏省 9月8日着

倫敦第六六號

極秘

一、國際經濟會議準備委員會委員今日マテ決定セルモノトシテ左ノ通發表

日本 河合、津島

英國 Sir Frederick Leithross 及 Sir Walter

Layton

白國 Franquai 及 Langhoven

伊國 Michelis 及 Bianchini

國際決濟銀行 Trip 及 Fraser

二、昨夕 Leithross ト右會議其他ニ關シ談話交換ノ際同氏ハ私見トシテ内話シタル點左ノ通

(い)佛、獨、米ノ委員ハ未タ決定セス佛ハ Rist 及 Par-

カ日本ヨリモ特種問題ニ對スル専門家參加ハ便宜或ハ必要ナルヘシ

(は)「小官ヨリ國際經濟會議ト戰債問題トノ關係ニ付意見ヲ述ヘ戰債問題ヲ右會議ト同時ニ處理スルニ非サレハ會議ノ效果少カルヘキ旨ヲ述ヘタルニ對シ」

自分モ同感ナルカ此ノ點ヨリ見テ會議ノ開催時期ノ決定ニ重大關係ヲ生シ戰債交渉ニ關シ全然目鼻着カサルニ先ツ國際經濟會議ヲ終結セシムルコトハ如何カト考ヘラル從テ假ニ大統領選舉後十二月議會ニ戰債改訂委員會設置法案ヲ提出シ來年ニ入り戰債交渉ヲ見ルカ如キ場合國際經濟會議モ其時機ヲ後ラシムルコトトナルヤモ知レス

右ハ全然私見ニ過キス

(へ)英國政府ノ軍事公債借換ハ大成功ナリシカ Lausanne 會議ノ中途ニ於テ之ヲ發表セルハ一大冒險ナリキ幸ニシテ會議成功シ借換モ豫想以上ノ成績ヲ納メ而モ其效果ハ舊ニ英國財界ノミナラス海外諸國ニモ波及シタルモノト信ス最近世界財界ノ好轉ノ兆ヲ見ツアルハ洵ニ喜フヘキコトニシテ不況ノ影響顯著ナリシ濠洲ノ如

mentier 候補者トセラレ居ル由米國委員ハ Organization Committee ニ駐獨 Sacket 大使及 Norman Davis 任命セラレタルカ Davis ハ恐ラク準備委員會ニモ指名セラルヘキカ何レニスルモ米國ニハ委員長ノ地位ヲ與ヘ會議ニ對スル米國ノ責任ヲ重カラシムルヲ可トスルノ見地ヨリ最適任者ノ指名アル事ヲ希望シ居ル次第ナリ、自分ハ經濟分科會擔當 Walter Layton

ハ財政分科會ヲ擔當スヘシ

(ろ)準備委員會開催地ハ壽府、開催期日ハ九月末頃ノ豫定ナルモ恐ラク十月上旬トナルヘシ、第一回會合ハ二三週間各國側ノ意見ヲ持寄り審議ノ上一時休會、更ニ第二回會合ヲ開ク段取トナルヘシ

(は)通貨爲替問題ニ付テモ種々ノ提案アルヘク貿易障礙撤廢問題ニ付テモ各種ノ具體案出ツヘク石炭問題ノ如ク貴國ニ利害關係少キモノアルヘキカ Shipping ノ如キハ重大ナル利害アルヘシ要スルニ問題頗ル多キ廣汎ナル各國委員ノ全員一致決議ヲ見ルコト困難ナル提案モ本會議ニ報告スルコトトナルヘシ

(こ)英國ハ委員以外ニ相當ノ専門家參加ノコトトナルヘキ

キ著々改善セラレ居ルコトハ大勢ヲ知ルニ足ル事象ナリ

(と)日本ノ財界ニ付テハ悲觀的觀察ヲ爲スモノアル所實狀如何トノ質問アリ之ニ對シ小官ハ最近ノ證券界並貿易狀況ノ改善物價騰貴等ノ事實ヲ示シ何等憂慮スヘキモノナキコトヲ説明シ置ケリ

九月七日

~~~~~

399 昭和7年10月3日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より 内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議準備のための連盟理事会委員会の討議内容について

ジュネーヴ 10月3日後発

本省 10月4日後着

第五九四號

世界經濟財政會議準備ノ爲ノ理事會委員會本三日會合往電第五四三號ノ一ノ(一)所載國代表以外米、白、兩國代表出席重要決定事項左ノ通

(一)専門家準備委員會ヲ十月三十一日壽府ニ招集スルコト

(二)本會議ハ倫敦ニ於テ開催スルコト同會議ハ成ルヘク速ニ開催スル必要アルモ前準備委員會ノ報告ヲ待チ開催ノ期日ヲ決定スルコト然ルヘシト爲シ結局十一月中旬理事會財政委員會ヲ開キ期日ヲ決定スルコト

(三)本會議ニハ一切ノ聯盟國及非聯盟國ヲ招請スルコト尙獨逸代表ハ準備委員會中ニ蘇聯邦專門家ヲ参加セシムルヲ強硬ニ主張シタルモ多數委員之ニ反駁シタル爲將來本問題ヲ提起スル權限ヲ留保シ一應本主張ヲ撤セリ  
英ヨリ津島財務官ニ轉報ヲ請フ  
英、波蘭ヘ轉電セリ  
在歐洲各大使ヘ暗送セリ

400 昭和7年10月(25)日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議準備委員會における財政問題に  
對する我が方対応につき請訓

ジュネーヴ 發  
本省 10月25日後着

第六一七號

來ル經濟會議準備專門委員會ノ件ニ關シテハ孰レ關係委員ヨリ必要ニ應シ請訓ノ事アルナラント存セラルル處津島委員ヨリ財政問題ニ關シ不取敢左記ノ通請訓方依頼アリ右ニ對シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

一、通貨信用問題ニ付英國委員ト意見ヲ交換シタルニ聯盟金委員會報告ハ審議ノ基礎トシテ利用セラルヘク國際的金本位制度復歸ノ必要及之カ實行及運用ノ條件等ニ付攻究セラルヘシトノ事ナル處將來ノ通貨制度トシテ金本位復歸(舊平價タルト新平價タルトヲ問ハス)ノ外ナシトスル事最近ノ大勢ト相成居リ委員會ハ此ノ總ニ重心ヲ置クヘシ當方トシテハ時期、方法、條件ノ審議セラレ金本位ノ圓滿運用確保セラルモノトセハ本制度復歸ノ大勢論ニ順應審議シ差支之レ無キヤ

右根本問題ニ關シテ何等御意見アラハ御回示相成度シ  
二、爲替取引制限ノ緩和撤廢問題(英國委員ハ英國側ハ此ノ問題ヲ重要視シ居リ具體的提案ヲナス由申シ居レリ)ニ付聯盟總會ニ於ケル御方針ニ準據然ル可ク對處致度キ處尙近キ將來本邦資本逃避防止法ノ改正等ニ付御考慮中ナラハ其點御内報賜ハリタシ

三、銀問題ニ付米國側ヨリ具體的提案アルヘシ銀貨ノ維持安定ハ本邦ニトリテモ重要問題ナルニ鑑ミ大局上本邦側ニトリテモ有利ト認メラルル解決案ハ之カ成立ニ充分協力スル事ト致度シ

四、右ノ外本邦側ヨリ提案スヘキ事項其他何等御氣付ノ點アラハ御回示相成度シ

401 昭和7年10月31日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

國際經濟會議準備委員會における関税・通商  
・貿易問題などに対する我が方対応につき請訓

パリ 10月31日後發  
本省 11月1日前着

第一〇三號

壽府發電報第六一七號ニ關シ

件 二十九日河合、津島、兩委員以下當地集和本件準備委員會  
十 雜 對策ニ關シ種々協議ヲ遂ケタルカ差當リ左記事項ニ對スル  
政府ノ御意向承知致度シ

(一)關稅政策ノ問題ハ委員會ノ主要問題ノ一トナルヘキ事ト

察セラルル處本件ニ關シテハ本年通常總會代表宛貴電第三號御訓令ノ御趣旨ヲ体シ措置シ然ルヘシト存スル處本邦トシテハ差當リ關稅ノ引上乃至「クオータ」制度ノ設定等ヲ爲ササル御方針ナリト了解シ差支ヘ無キヤ尙一般的關稅低下ヲ目的トスル措置ニ付テハ討議有ル場合ニハ本邦トシテハ多數國カ同様ノ措置ニ出ツル場合ニハ關稅低下ヲ行フ用意有ルモノト了解シ然ルヘキヤ

(二)通商障害問題ト關聯シ一般的問題トシテ「ボイコット」ノ禁止ニ關シ他國ヨリノ提議無キ場合當方ヨリ進ンテ之ヲ本會議ノ議題トスル事ヲ提議スル事然ルヘシト存スル處右様取計差支ヘ無キヤ

(三)英國側ハ船舶過剩問題解決ノ爲老齡船舶破壊、繫船問題及船舶會社ニ對スル補助金制限ヲ提議スル由聞込有リ若シ果シテ斯ル具體案提出ノ際ニハ當方トシテハ殊ニ如何取計フヘキヤ

(四)貿易ノ國家管理ニ付テハ當方トシテハ主義上反對ナル趣旨ヲ以テ之ニ應酬スル積ナルカ右ニテ差支ヘ無キヤ

(五)尙當方トシテ進ンテ提議スヘキ事項有リヤ  
尙準備委員會期間ニ關シ最近ノ聞込ニ依レハ關係方面ニ於

テハ當初ノ豫定ヲ變更シ十數日會合大体ノ方針ヲ決定セル後一度解散シ其結果ニ付テハ各國政府ニ照會ノ上更ニ十二月初頃會合最後ノ決定ヲ爲ス様取計フ方針ナリトノ事ニモ有之前記各項ニ關シ冒頭ノ通稟申ノ件ト共ニ壽府宛折返シ御回電アリタシ

402 昭和7年11月1日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

#### 国際經濟會議準備委員會の開会について

ジュネーヴ 11月1日後発  
本省 11月2日前着

第六二〇號

河合津島兩委員ヨリ

準備委員會昨日開會 Trip (和蘭)ヲ議長ニ選任シタル上直ニ經濟及財政ノ二分科會ニ別レテ實質的審議ニ入り先ツ前者ハ通商障礙後者ハ金本位復歸ノ條件ニ關シ討議ヲ進メタル處壽府發電報第六一七號並ニ巴里發追電請訓ノ件至急何分ノ御回訓相煩度シ

403 昭和7年11月2日 内田外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

関税・通商・貿易問題などに対する我が方対応につき回訓

本省 11月2日後11時0分発

第二九七號(至急)

巴里發貴電第一〇三號ニ関シ

(一)極メテ少數ノ品目ニ付テハ目下税率改正ノ研究中ナルモ差當リ大規模ノ関税引上ヲ為ス意向ナシ一般の関税引下ニ付テハ具体案ヲ見ザル限り確定意見ヲ述べ難キモ米、支、印度、濠洲等本邦ノ重要利害關係國ガ参加スル場合ニハ之ニ好意的考慮ヲ加フル用意アリ(昭和四年在壽府聯盟事務局長宛往電第三七号(一)及(二)参照)「クオータ」制度ハ差當リ設定ノ考ナシ

(二)「ポイコット」禁止問題ニ付テハ曩ニ經濟不侵略條約會議ノ際我方ヨリ提案シタル關係モアリ御來示ノ通措置セラレ差支ナシ(客年在佛貴官宛往電第一三七号(二)ノ五参照)

(三)追テ電報スベシ

(四)貿易ノ國家管理ニ付テハ當方モ主義上反對ナルヲ以テ其趣旨ノ國際協定成立ヲ見ルコトハ望マシキモ他國ガ同様ノ主義ヲ採ラザル場合本邦ノミ之ニ拘束セラルルコト能ハズ尚此奥ニ付テハ往電第二九八号ノ二参照アリ度  
(五)差當リ提案ナシ

編注 『日本外交文書 昭和期I第二部第二卷』181文書参照。

404 昭和7年11月2日 内田外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

財政問題に対する我が方対応につき回訓

本省 11月2日後11時20分発

第二九八號(至急)

貴電第六一七号ニ関シ

件 一、通貨信用問題 我國ハ近年ニ於ケル内外經濟ノ變局國際の信用ノ動搖ノ影響ヲ受ケ殊ニ昨年諸國ノ金本位離脫ノ餘波ヲ蒙リ遂ニ金本位停止ノ已ムヲ得ザルニ至レルモ

ノナルガ將來ノ貨幣制度トシテハ依然金本位復歸ヲ目標トスル外ナキモノト認メラル從テ會議ニ於テハ此ノ見地ニ於テ大勢ニ順應審議差支無之尤モ今日迄ノ經驗ニ徴スルニ金本位ノ圓滑ナル運用ニハ從來ヨリモ有力ナル國際的協力ノ必要ヲ感ズルト共ニ各國ノ金本位復歸ノ時期方法等ハ當該國ノ事情ヲ基礎トシテ自由ニ決スル外無キコト勿論ナリ

二、為替取引制限ノ緩和撤廃問題 為替管理ノ方針ニ付テハ現在ノ情勢ニ於テハ聯盟總會ニ於ケル方針ニ関シ申送レル如ク現行ノ資本逃避防止ヲ本体トシ必要ニ應ジ省令ニ改正ヲ加フル程度ニ止ムル考ナリ尤モ情勢ノ推移ニ依リテハ更ニ進ミタル立法手續ヲ採ルノ必要ヲ生スルヤモ圖リ難キモ此ノ奥ハ今日ヨリ豫測シ難シ

三、銀問題ニ関シテハ御來示ノ方針ニテ差支ナシ

405 昭和7年11月4日 内田外務大臣より  
在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛  
(電報)

船舶過剩問題に対する我が方対応につき回訓

第二九九號(至急)

往電第二九七号ノ(三)ニ関シ

船舶過剩問題解決ノ爲ニスル老齡船破壊及繋船問題ニ関シテハ趣旨ニ於テハ賛成ナルモ各國其ノ國情ヲ異ニスルヲ以テ具體的の成案ヲ見タル場合ニ於テ其ノ実行可能ナリヤ否ヤニ付更ニ考究ノ上賛否ヲ決スルコト、致度又繋船会社ニ対スル補助金ニ関シテハ各國其ノ國情ヲ異ニスルヲ以テ國際的ノ協定ニ依リ制限スルコトハ賛意ヲ表シ難シ

尚我國ニ於テハ船腹調節並船質改善ノ目的ヲ以テ本年十月ヨリ三個年度間ニ互リ船齡廿五年以上ノ老齡船四十万噸乃至六十万噸ヲ解体シ其ノ代船トシテ二十万噸ノ新船ヲ建造シ之ニ國庫補助金ヲ支給スルノ施設ヲ実施シ居ルヲ以テ(九月二十七日附官報通信省告示参照)老齡船破壊及繋船問題ニ関スル提議ノ内容ガ右施設ヲ阻碍スルガ如キモノナル場合ニ於テハ賛意ヲ表シ難キニ付右御含置アリ度シ

406 昭和7年11月7日

在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

「ノート」要點其他追電スヘシ

407 昭和7年11月8日

在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

財政分科会作成ノートについて

ジュネーヴ 11月8日後発  
本省 11月9日前着

第六二五號

往電第六二四號ニ關シ

件 雜 十  
一、財政分科會(委員長 Beneduce)ニ於テハ金本位復歸ノ條件如何カ主要論トナリタル處金本位離脫國側殊ニ英國委員ハ「オタワ」會議ニ於ケル本件決議ヲ指示シ物價引上ケ其他財政經濟ノ回復アリ且金本位圓滿運行ノ確保セラルルニアラサレハ金本位ニ復歸スルコト能ハスト爲セルニ對シ金本位國側及國際決済銀行ノ諸委員ハ物價引上ケ其他財政經濟ノ爲ニハ先ツ各國トモ金本位ニ復歸スルヲ要ストシ又物價問題ニ付テモ前者ハ金本位國ノ物價引上ケヲ要ストセルニ對シ後者ハ此ノ上金物價ノ引上ケヲ好マス且金融上ノ措置ニ依リ物價ヲ引上クルコト能ハスト爲ス等兩者意見

國際經濟準備委員會第一次会合は經濟・財政兩分科会ともにノート作成を終了し散会について

ジュネーヴ 11月7日後発  
本省 11月8日前着

第六二四號

往電第六二二號所報ノ通り財政經濟兩分科會ハ今日迄ニ意見ヲ交換シタル處ニ依リ格別ノ「ノート」ヲ作成セルヲ以テ本日午後總會ヲ開キ

(一)右「ノート」(財政分科會ノ分ヲ本日確定セルモ經濟分科會ノ分ハ未了ノ點アリ引續キ明日協議アル豫定)ヲ議題トシタルカ委員中ヨリ兩分科會ノ審議ハ關聯併行スルノ要アルコトニ付意見ノ開陳アリタル後之ヲ承認シ次テ

(二)議長ヨリ「オウガナイゼーション、コミテイ」ニ對シ送付案文

(三)議長ヨリ新聞紙ヘノ發表案文  
ヲ議シ玆ニ第一回會合ヲ終ヘ次回ハ「クリスマス」後(期日全然未定)再開スルコトシテ散會セリ

因ニ新聞紙等ニハ單ニ會議ノ經過ヲ發表スルニ止マリ右「ノート」ノ内容ハ發表セサルコトニ取極メタリ

ノ相異スル點多ク又委員ハ各自國ノ立場ヲ固持シ居リ今日ノ階梯ニ於テ諸員ノ意見一致ヲ計リ具體的の解決案ヲ作製スルハ困難ナルヘキヲ以テ各委員ノ主要意見ヲ摘出列記セル「ノート」ヲ作成シ第二次會合迄ニ篇ト考究スルコトナリタリ從テ「ノート」記述ノ事項中ニハ全員同意ノモノアルト共ニ必スシモ見解一致セサルモノヲモ併記セリ  
二、「ノート」要點左ノ通(「ノート」ハ公表セス)  
(一)通貨及信用政策

(イ)分科會ハ國際的ニ採用セラル可キモノトシテ金本位以外ニ何レノ通貨本位無シトスルニ一致セリ尤モ金本位復歸ノ時期、貨幣單位標準及態樣ハ當該國ノ「プロパ一、オウソリテイ」ノ決定ス可キモノニシテ此ノ決定ハ内外ノ經濟狀況如何ニ係ル

(ロ)金本位復歸ノ條件

(A)或ル種政治的問題ノ解決ニ依リ信頼恢復

(B)國際收支機構ヲ満足ニシ金準備不足國ノ金獲得ヲ可能ナラシムル事例ヘハ

(一)政府間債務ノ解決

(二)貨物、勞務移動ノ自由恢復

(三) 資金移動ノ自由恢復

(四) 短期資金ノ巨額且ツ急激ノ移動ニ依ル危險減少

(五) 金本位復歸ノ場合適當ノ平價ノ採用

(C) 金本位運行確保ノ一般の了解

尙此ノ點ニ關シテハ

(一) 金委員會最終報告ヲ基礎トスル事

(二) 金爲替本位ハ繼續サルル事トナル可キモ其運用ハ多少改ムルノ要有ル可キ事

(三) 最低金準備率引下ケノ必要ナル事

(四) 金準備偏在ノ問題並ニ右餘裕金準備ヲ世界信用機構強化ニ使用スルノ問題ヲ論議セリ

(D) 尙國內のニハ

(一) 國、地方團體及公企業ノ豫算均衡

(二) 金移動及信用政策ヲシテ其ノ當然ノ效果ヲ生セシメ且ツ經濟組織ニ彈力性ヲ與フル必要

(三) 國內金融及資本市場ノ健全化

(一)<sup>(3)</sup>其ノ他論議サレタル點左ノ如シ

(A) 物價ノ金本位復歸ニ及ホス影響

(B) 或ル國々ノ行動ハ特ニ一般の通貨政策ニ決定的影響

アルコト

(C) 中央銀行ノ政治上ノ勢力ヨリノ獨立

(D) 中央銀行間ノ協力及之ニ關スル國際決済銀行ノ地位

(E) 國際決済銀行ト聯盟財政機關トノ協力

(F) 「ストレージ」會議決議ノ normalisation

(G) 金本位復歸ト中央銀行ノ「クレジット」ノ關係

(二) 銀問題ハ次ノ會合ニテ審議サルヘキコト

(二) 物價

分科會ハ金融上ノ措置ニ依リ現下ノ一般物價標準ヲ動カシ得ヘキヤヲ考究セルカ世界ノ卸賣物價騰貴セハ金本位復歸ヲ促進スルコトヲ認メタリ

(三) 爲替ノ障礙

本項ニ關シ論議セラレタル點左ノ如シ

(イ) 爲替管理ハ内外物價ノ不均衡ヲ來ス危險アルコト

(ロ) 爲替管理撤廢ノ條件

(A) 短期外債ヲ急激ニ引揚ケサルコト据置協定ヲ改訂スルコト及長期債務ニ付テモ現在ノ物價ニ鑑ミ負擔過重ノ場合ニハ取極ヲ爲スコト

(B) 貨物移動ヲ自由トスルコト

408 昭和7年11月11日 在ジュネーヴ沢田連盟事務局長より  
内田外務大臣宛(電報)

經濟分科會作成ノートについて

ジュネーヴ 11月11日後発

本 省 11月12日前着

第六二六號

往電第六二四號ニ關シ

經濟分科會(議長「ワン、ランゲン、ホーフエ」、白耳義)ハ今次ノ會合ニ於テハ具體的結論ヨリモ寧ロ各國ノ意嚮ヲ取纏ムルコトトシ一先ツ審議ヲ打切り「ノート」ノ作成ヲ了シタリ

一、總括的意見

現下ノ世界の不況ハ一九三一年來諸國ノ通貨及財政狀態ノ惡化ニ依リ一層激化シ之カ打開策トシテハ國際通商關係ノ促進ヲ必要トスル處先ツ近年激増セル幾多ノ通商障礙ノ撤廢又ハ緩和及關稅引下ノ急務ナルヲ認ムルト共ニ之ト密接ナル因果關係ヲ有スル通貨、爲替、物價、財政ノ諸問題ノ解決ト相俟テ成可ク急速實施シテ自由通商ノ復歸ニ努ムヘキコトニ意見一致シタルモ現下ノ如キ恐慌時ニ於テハ各國

(五) 公共事業

國際勞働事務局代表提出ノ該問題ハ委員ヲ選ヒ次期會合迄ニ右代表及交通委員會代表ト共ニ審議スルコト

三、該分會ニ於テ津島ハ金偏在ノ事實ヲ指摘シ國際の金本位復歸ニ當リテハ條件時期ノ重大ナルコト金本位復歸後ノ圓滿運行ニ關スル保障必要ナルコト等ヲ強調シタルカ英國委員ノ所見ハ自ラ(C)ト一致シ之ヲ支持セリ

(四) 資金ノ移動

前記(三)ニ掲クルモノノ外(イ)資金移動ノ停滯及對外投資家ノ信賴回復困難ニ付審議シ又(ロ)債權國ハ貨物又ハ勞務ニ依ル支拂ヲ認ムヘク又金移動ニハ其自然ノ效果ヲ有セシムル要アル旨強調スルモノアリタリ

(ホ) 貿易上ノ爲替ニ對スル制限ヲ先ツ撤廢スルコト

(ニ) 現存ノ短期債務据置協定ハ改定ノ要アルコト及長期債務ニ付調停機關ヲ設クルコト

(C) 輸出ニ依リ得ル資金カ外國ニ block セラルル制度ヲ廢止スルコト

(一)<sup>(4)</sup>通貨動搖ハ他國ノ國際收支ニ影響スル處大ナルヲ以テ通貨ヲ事實上安定セシムルコト

共事情ヲ異ニシ實行相當困難ナルヘキモ少クトモ現行通商ノ諸制限ハ成可ク其ノ必要ノ限度ニ極限シ尙之ヲ一時的ノモノト看做シ漸次緩和スヘキモノナリトノ見解ニ達シ不況ノ原因ニ遡リ通商障害撤廢及關稅引下ニ關スル意見ヲ「ノート」中ニ纏メタリ

通商條約問題ニ關シテハ最惠國條款適用問題カ討議ノ中心トナリ無條件適用ヲ主義トスヘキコトニ意見大體一致シ假ニ現下ノ不況ノ結果一時的制限ヲ寬容スル場合ト雖其ノ解釋並ニ適用ニ付更ニ慎重ナル研究ヲ重ネ差別待遇ヲ避クルニ努ムヘシトシ尙本問題ニ關聯シ「ストレーザ」問題檢討セラレ本會議ノ議題トスヘキコトニ意見一致セリ

生産者協定ニ關シテハ小麦、石炭、木材等ノ協定以外ノモノハ聯盟經濟委員會ニ譲リ此ノ種ノ協定ヲ倫敦本會議ノ議題トスヘキヤ否ヤニ付意見一致セス寧ロ生産者ニ一任シ政府力干涉セサルヲ可トスルモノト政府モ産業保護ノ見地ヨリ之ニ關與スヘシトノ說アリタリ

尙關稅品目統一國家ノ輸出補助金其ノ他直接間接補助金「ダンピング」稅及取締方法原產地表示、關稅手續、不當競争、「クリーヤリング」協定其他通商ヲ阻害スヘキ事項

並ニ外國人待遇ニ付次回ノ準備委員會ニ討議スヘキコトトセリ

尙「ポイコット」ハ通商ヲ著シク阻害スル問題ト認メラレ「ノート」中ニ之ニ關スル一節設ケラレタリ

二、主要國ノ事情

現下各國ノ執リ居ル各種ノ保護政策ハ金保有國、金本位離脫國、債權國、債務國（東歐農業國）等夫々複雑ナル事情ニ支配セラレ一樣ナラサルカ各委員ノ説明ヲ綜合スルニ英國ハ主トシテ國際物價ノ不均等ノ匡正及生産國ヲシテ生産ヲ調節セシムルヲ目的トシ佛國ハ國內産業維持ノ必要上貨幣低落國ヨリノ商品「ストック」處分品其他投資的低廉品ノ侵入ノ防止策ヲ講スルノ已ム無キヲ開陳シ獨逸ハ同國ノ輸入爲替管理ハ貿易管理ニ非スシテ通貨安定策上已ムヲ得サルモノナリト辯明シ同國工業品カ海外販路ヲ確保セラルルニ於テハ國內失業者モ減退シ其ノ購買力ノ恢復ニ依リ農村救済ノ目的ヲ達シ現行「クオータ」ノ撤廢モ可能ナリトシテ海外販路ノ必要ヲ強調シ又東歐諸國ノ一タル匈牙利ハ農産國ノ窮狀ヲ訴ヘ穀類ノ特惠待遇價格ノ吊上ケ債務ノ輕減ノ必要ヲ說キ米國ハ自由

通商主義ノ立場ヨリ差別的待遇ヲ排斥シ最惠國條款解釋

ノ決定ノ必要ヲ論セリ尙「ノート」ノ内容ハ外部ニ發表

\*事項編注

本件委員會については、同委員會我が方代表作成の会合報告書が、既刊『日本外交文書 昭和期國際連盟經濟關係會議報告書集』第二卷に収録されているので、本件委員會会合の詳細な討議内容などについては同書参照。

セサル事トセリ爲念

~~~~~